



VOISTAGEマルチメディアボックス基本ソフトウェア

リリースノート

Ver.10.0.5.0

NTTデータ先端技術(株) 2021/1/8

2021年1月

NTT DATA NTTデータ 先端技術株式会社

Ver.10.0.5.0 2021.1.8

- 次の機能強化を行いました
 - ・基本ソフトウェアが読み込めるWAVEファイルのフォーマットを強化し、多くの一般音声ツールで作成したWAVEファイルに対してVoicePlayメソッドを実行できるようにした。
 - ・FAX受信実行時、回線品質低下等により、相手FAX機とのメッセージ送受信に非常に時間がかかる特殊な状況で、FAX受信に3時間かけた上で失敗とすることがあった。これをもっと早い時点で成否を判明するようにした。
 - 次の不具合を修正しました
 - ・ECMモードでFAX受信時、相手機がT4プロトコル違反となる小サイズフレームを送信してきた際、受信画像の作成ができずFAX受信に失敗するが、相手にはFAX通信成功を伝えていた。
 - ・PC高負荷時のFAX受信で、PRISVCBでアプリケーションエラーが発生し、以後、マルチメディアボックス単位の発着信が不能となることがある。
 - ・FAX受信開始時に相手送信側FAX機よりプロトコル違反となるメッセージを受信した場合、PRISVCBでアプリケーションエラーが発生し、以後、マルチメディアボックス単位の発着信が不能となることがある。
 - ・音声ログを取得しながらFAX受信をすると、まれにネットワーク遅延を契機として、相手へFAX信号を出さなくなりFAX受信に失敗することがある。
 - ・PC再起動後、LANボックスが未認識の状態でもコアサービスが起動し、発着信できなくなることがある。
-

Ver.10.0.4.0 2019.7.31

- 次の不具合を修正しました
 - ・特定FAX機にてMRかつECMありの条件で破損した画像データを受け取るとFAX受信に失敗することがある。
 - ・特定FAX機への送信が失敗することがある。
 - ・特定FAX機からMRで受信すると画像が乱れることがある。
 - ・サイズや解像度が違う複数ページのFAX送受信時、送受信に失敗する事がある。
-

Ver.10.0.3.0 2019.4.26

- Windows Server 2019の各エディションに対応しました
 - ・Windows Server 2019 Standard
 - ・Windows Server 2019 Datacenter
-

- 次の機能強化を行いました
 - ・新元号「令和」に対応した。
 - 次の不具合を修正しました
 - ・通話録音時の無音通知が旧筐体 (VS-411MB/VS-412MB/VS-2301MB) と比べ約1秒遅い。
-

Ver.10.0.2.0 2019. 2.22

- 次の機能追加を行いました
 - ・LANBOXのシステムログとヘルスチェックのログを出力設定できるよう追加した。
 - ※ 設定方法はオンラインヘルプを参照して下さい。
 - ・録音データ転送周期を変更できるようにした。
[指定方法]
次のファイルを管理者権限で編集します。(設定変更時はコアサービスの再起動が必要)

C:¥Windows¥SysWOW64¥VSADDPARAM. INI
次の内容を追加します。
(「//」で開始する行はコメントになる)

[ADDIN03]
// 録音データ転送周期[指定値 X 100msec] (default:5 Min:1 Max:5)
VDTN_TIME=5
 - 次の機能強化を行いました
 - ・DTMF誤検出防止性能を向上し、雑音や人の声の誤検出を軽減した。
 - ・OpenSSLを 1.0.2p へ更新した。
 - ・ネットワーク障害から復旧した時、LANBOXの動作性能の改善を行った。
 - 次の不具合を修正しました
 - ・14桁以上の発信者番号(ナンバーディスプレイ)が通知された場合、番号を取得できない場合がある。
(海外から発信された通話では、発信者番号が14桁以上になることがある)。
-

- ・品質が低下している回線でECM機能を使用してFAX受信する場合、再送が動作しない状況に陥り、FAX受信に失敗することがある。
- ・品質が低下している回線でFAX送信あるいは受信を行うと、ページ間の通信で再送処理が行われず、FAX送信あるいは受信に失敗することがある。
- ・FAX受信で相手機が圧縮形式にJBIGに加えてMMR/MRのいずれかを指定していた場合、誤解釈により画像変換エラーを引き起こすことがある。

Ver.10.0.1.1 2018.12.21

- 次の仕様変更を行いました

- ・FAX送受信メソッド実行直後、既に通話が切断されていた場合、FAX送受信は失敗し、その結果をSenseメソッドで取得すると、FAX送受信した枚数や、FAXエラー詳細は、一つ前のFAX送受信した結果を表示していたが、FAX送受信に失敗した際のSenseメソッドの結果として、FAX送受信枚数は0（枚）、FAXエラー詳細は3（相手切断）となるようにした。

- 次の不具合を修正しました

- ・回線に紐づいたアプリケーション(※)の起動、停止を繰り返すとコアサービスが異常終了、またはアプリケーションとコアサービスが接続できなくなりLinkPlayerメソッドに失敗することがある。

(※)StagePlayerで起動するスクリプトのアプリケーションやActiveX、S100等のアプリケーション

Ver.10.0.1.0 2018.06.08

- 次の機能強化を行いました

- ・LANケーブルをPCから抜去し、再びLANケーブルを差し直した場合、ControlNoticeイベント「0(マルチメディアボックスが再接続した)」を通知するか否かを設定できるようにした。

[指定方法]

VOISTAGE.INIの[VSMS100]セクション(既存)にパラメータ「MmbConnectEvent」を以下のように追記する。

MmbConnectEvent =<値>

<値>

TRUE(通知する:初期値)

FALSE(通知しない)

(本パラメータの記載がない場合や他の値が指定される場合、FALSEと解釈して通知しない)

・従来のログ保存方式に加え、ログファイル名にタイムスタンプを加えてユニークなものとし、永続的に保存することも可能にした。

(この場合、基本ソフトウェアは古いログを消さなくなるのでユーザの管理が必要になる)

[指定方法]

VOISTAGE.INIの[Log]セクション(既存)にパラメータ「ROTATION」を以下のように追記する。

(初期設定はパラメータの記載はなく、従来通りのログ出力)

ROTATION=<値>

<値>

NORMAL(従来通りの面数によるローテーション)

TIMESTAMP(記録されたログが指定サイズとなったらファイル名にタイムスタンプが追記される)

(本パラメータの記載がない場合や他の値が指定される場合、従来通りのログ出力を行う)

詳しくはオンラインヘルプの「Ver.10新機能一覧」を参照のこと。

・INS発信専用回線や発信専用業務などの着信しないアプリケーションにて、PC負荷時にコアサービスとマルチメディアボックス間の通信状態不一致に起因する発信失敗を、自動復旧するようにした。

● 次の不具合を修正しました

以下の不具合はVer.9.0.6.0からのバックポートとなります。

・複数ページのFAX送信の際、まれにFAX送信完了が3時間以上遅れる。

(2ページ以降の送信開始時、破損した特定のFAXプロトコル信号を受信し、そのタイミングで相手切断する場合)

・特定FAX機からの原稿をMRで受信する場合、画データ変換エラーになることがある。

Ver.10.0.0.0

2017.10.18

● Ver.10概要

- ・ VOISTAGEマルチメディアボックス LAN版 VS-2301LB(INS1500回線版)に対応しました。
 - ・ マルチメディアボックス基本ソフトウェアVer.9.0.5.0と互換を維持しています。
 - ・ 対応OSは次の通りです。
 - Windows 8.1
 - Windows 10 Professional
 - Windows Server 2012 R2 Standard
 - Windows Server 2016 Standard/Datacenter/Essentials
- ※ .NET Framwork 4.5 必須

● 機能追加一覧

・ ネットワーク関連の新API追加

マルチメディアボックスのネットワーク設定、保守、更新時には専用のGUIツール(LANBOX設定ツール)を用意していますが、同様の機能を持ったAPIを追加しました。

● 注意事項

本ソフトウェアに含まれているVOISTAGEオンラインヘルプは、マルチメディアボックス基本ソフトウェアVer.7～9に含まれている内容と同一です。

最新のVOISTAGEオンラインヘルプにつきましては、下記のURLにアクセスしてください。

https://sites.google.com/a/voistage.com/vs_help/